

岩国港 <Port of Iwakuni>

■港格／重要港湾
■港湾管理者／山口県
■指定年月日／昭和27年2月



山口県の最東端に位置する岩国港は、岩国・大竹・和木地区の窓口港として発展を遂げ、昭和27年に重要港湾に指定されました。戦後、旧陸軍燃料基地跡地に全国初の石油コンビナートが形成され、瀬戸内海工業地帯の一翼を担う工業港として発展してきました。平成4年には東南アジアを中心とした外貿コンテナ航路が開設されて以降、コンテナ貨物は急増し、現在では輸出量の約7割をコンテナ貨物が占めています。取扱貨物は背後の企業の特徴とおり、原油・石油製品が8割を占めています。全般に水深が深く、瀬戸内本航路に隣接しているため大型船の入港も容易で港湾条件に恵まれた港です。

円滑な港湾物流輸送の確保、各埠頭の効率的活用を図るため、整備を進めています。

やまぐち「港」物語 - 岩国港 -

明治以来の岩国の経済は急速に変化・発展しました。伝統を持つ製糸・製紙工業、さらには化学工業も発展し、岩国の大工業地帯が造り上げられました。岩国が海岸に近い干拓地を有し、海運の便がよいという利点が生かされ、工場数は更に増加を重ねていきました。

大正14年に帝国人造絹糸株式会社が起工し、国内最大の人絹工場となったことで岩国は近代工業化の第一歩を踏み出します。麻里布村は町制を布いて支援し、人々の活気にぎわいました。その他、東洋紡績株式会社・帝人製機・山陽バルブ・興亜石油・三井石油化学などが進出。紡績・製紙・化学品工業では県下第一の生産額を占めるなど、工業都市としての特色を形成しました。



←山陽国策バルブ岩国工場／バルブ工場として東洋一の規模を誇りました。バルブ・洋紙の他、化成品や建材を主要製品としていました。



←人絹町のにぎわい／昭和2年から帝国人造絹糸株式会社岩国工場が操業を開始。麻里布村は人絹工場に大きい期待をかけ、援助をつきました。

写真／「ふるさとの思い出 写真集 明治・大正・昭和 岩国」より転載

岩国港整備事業の紹介 — 臨港道路整備事業 —



岩国港臨港道路は、岩国港のふ頭間を結ぶ全長約2,900mの臨港道路です。港湾貨物量の増加が見込まれる岩国港では、この臨港道路の整備により、円滑な港湾物流を通して、物流コストの低減が図られます。




また、周辺企業からの貨物輸送に臨港道路を利用することにより、国道2号線の渋滞緩和や、周辺住宅地の生活環境の改善が図られます。

国道2号の渋滞状況

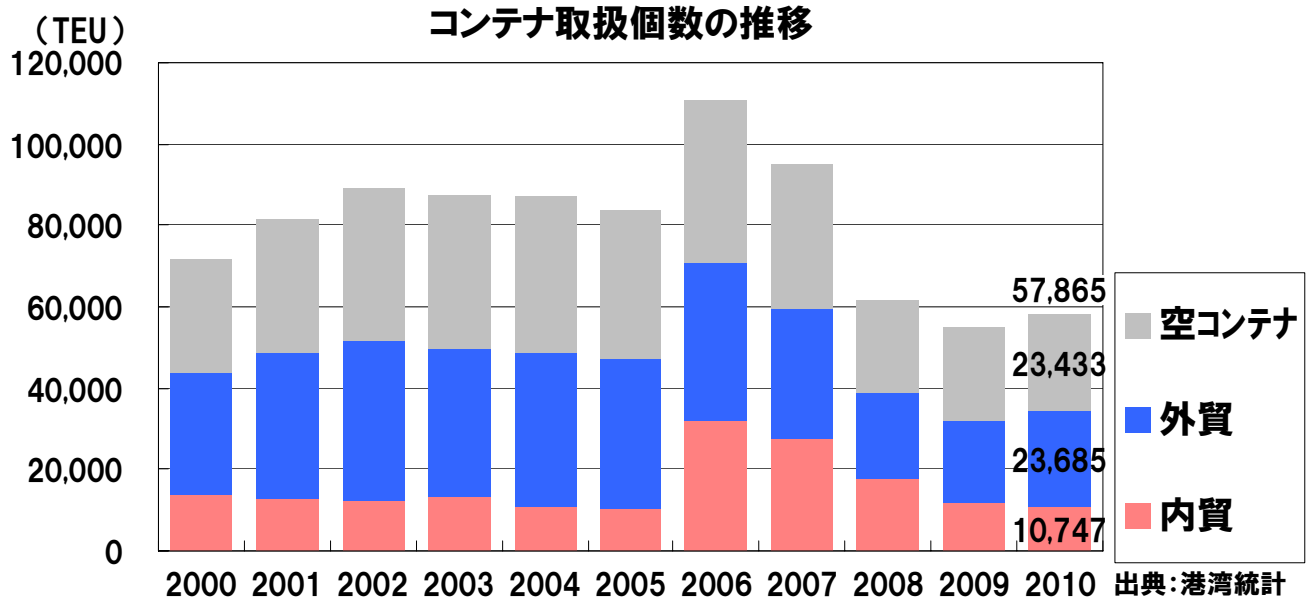
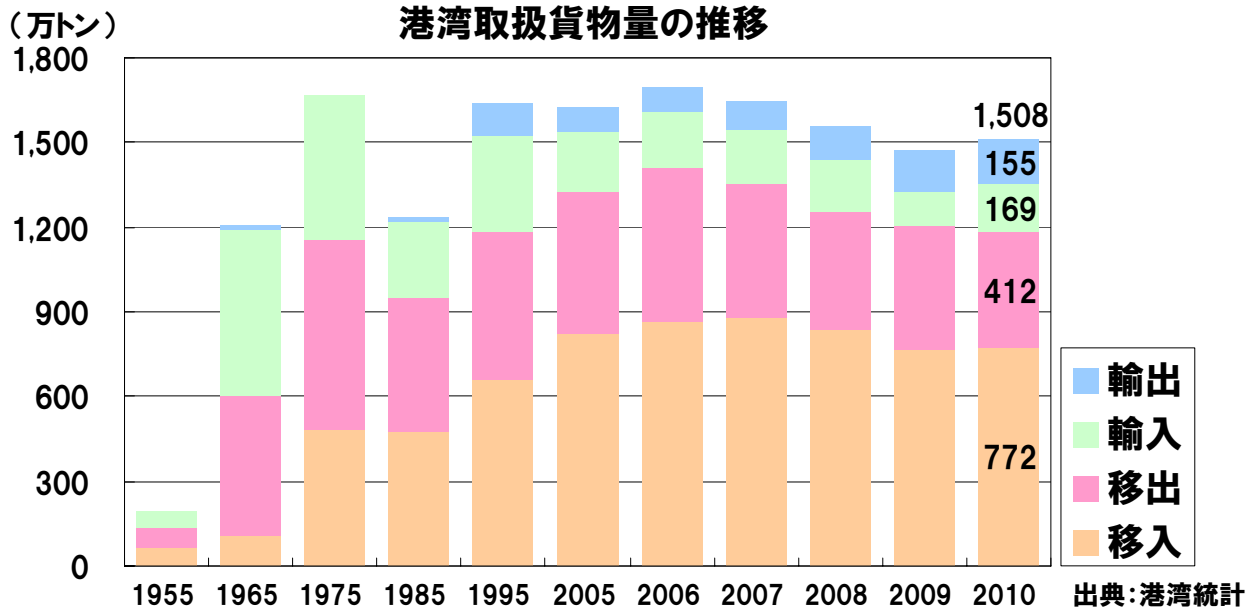


新港地区のコンテナ貨物の状況

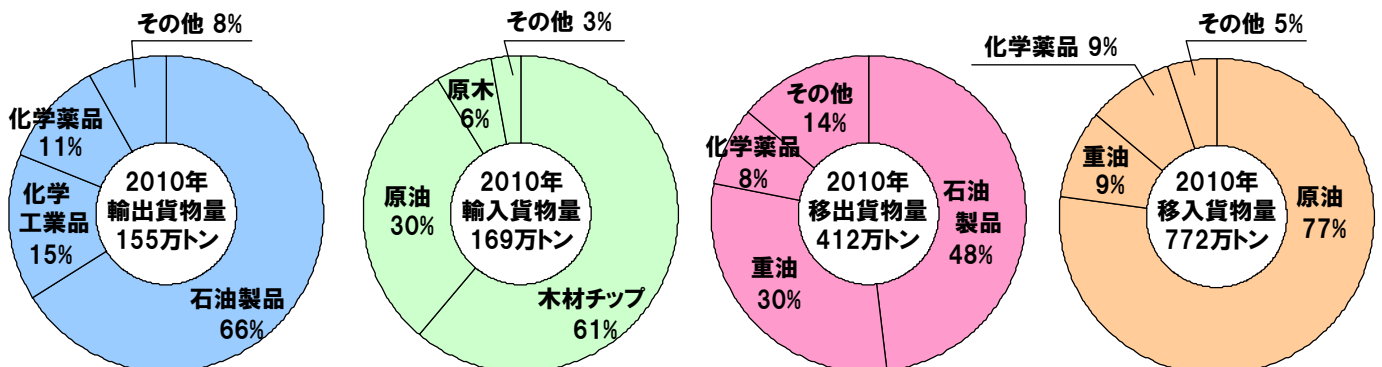


- 
工場と 三つのふ頭を結び、渋滞から逃れ、物流コストを削減します。
- 
街と 港をつなぎ、地域経済や静かな生活環境づくりに貢献します。
- 
世界と 岩国をつなぎ、国際物流拠点として国際交流を促進します。

数字でみるみなと - 岩国港 -



外内出入別の主要品目取扱貨物量(2010年)



出典: 港湾統計